



## 1. 理事会開催報告 — 2022 学年度は 880 人採用 —

6月3日、全国の理事30人、監事3人が出席し、第29回理事会がオンライン会議（zoom）で開催されました。昨年はコロナ禍の中、例年6月・8月に開催している理事会はどちらも書面決議となりましたが、それから1年が経過し、オンライン上とは言え、全国の理事・監事が一堂に会して協議する、理事会本来の姿を取り戻すことができました。

今回の理事会では、議長の齋藤直美理事長の



進行の下、主な議案として、2022 学年度奨学生採用数の件、2022 学年度募集要項の件、2021 年度事業計画案、資産運用方針案、収支予算案などが審議されました。これらの議案は各担当理事、事務局長からの提案説

明を経て、すべて原案通り承認されました。これにより、2022 学年度の奨学生採用数は、前年度比10人（枠）減の880人（枠）とすることが決定しました。

## 2. 第4代よねやま親善大使に委嘱状を伝達

6月3日の理事会開始前に、全国の理事・監事が見守る中、第4代よねやま親善大使への委嘱状伝達式が行なわれました。これは本来、昨年6月の理事会と合わせて行われるはずでした



が、コロナ禍のため延期になっていたものです。

緊急事態宣言下のため、残念ながら、大阪在住のウォーターズ・カレン・ジュリアさんとアドゥアヨム アヘゴ、アクエテレビさんはzoomでの参加となり、東京在住の李昱昊<sup>リイッコウ</sup>さんのみ、来場参加となりました。相澤光春<sup>ライツクワ</sup>広報担当理事の司会進行で、よねやま親善大使から一人ずつ、自己紹介と抱負が述べられました。続いて、理事長の名代として水野功副理事長が委嘱状を代読し、親善大使を代表して李さんに委嘱状を授与。全国の理事・監事から温かな拍手が送られました。締めくくりに、齋藤理事長から「もうあと半年くらいでもっと自由に動けるようになるはず。皆さんには、よねやま親善大使としての任務を立派に遂行していただきたい」と激励のメッセージが送られました。

## 3. 寄付金速報 — 今年度は 30 日着金分まで —

5月までの寄付金は、前年同期と比べて0.9%増（普通寄付金：0.3%減、特別寄付金：1.6%増）、約1,200万円の増加となりました。皆様からのご支援に厚く御礼申し上げます。昨年7月から5月までの寄付累計額12億3,700万円は、2009～13年度の同時期よりも上回っており、少しづ

つ、コロナ前の状況に戻りつつある兆しが伺われます。

今年度の寄付実績は、普通寄付金・特別寄付金ともに、**6月30日（水）までに当会の銀行口座に入金記帳された分まで**となります。ご送金の際には、日程に余裕をもってお送り下さい。

## 4. タイ米山学友会が総会を開催

5月15日、タイ米山学友会の総会がオンラインで開催されました。タイ出身学友のほか、タイおよび日本在住のロータリアン、日本・台湾・韓国の学友会会長・役員など、総勢60人が参加する盛会となりました。



総会では、当会の齋藤直美理事長、柚木裕子事務局長からのメッセージ動画に続き、来賓ロータリアンから祝辞が述べられました。また、これまでに実施した多様な活動についての報告

と、それぞれ関わったロータリアンからのメッセージが動画で紹介され、オンラインならではの工夫が凝らされていました。タイ米山学友会は、Participation（参加）とKakehashi（懸け橋）をテーマに、今後も前進していくと、ワシン会長

は力強く述べ、最後に、加古川RCの保地富夫会員の挨拶で閉会となりました。2022年は創立10周年を迎えるタイ米山学友会。笑顔で再会し、共に祝う日が来ることを願っています。

## 5. 奨学生の安全を願って自転車をプレゼント！

第2540地区（秋田県）本荘RCが、6月4日の例会で奨学生の葛睿剛さん<sup>カツエイゴウ</sup>へ自転車をプレゼントしました。

きっかけは、ある会員が偶然、町で自転車に乗る葛さんを見かけたこと。前カゴが壊れ、ハンドルにビニール袋をぶら下げてフラフラと走行する様子に、「あれでは心配だから皆で新しい自転車をプレゼントをしよう」と、会員に呼びかけました。葛さんを驚かせたいと、購入した自転車を前日のうちに例会場へ運び入れ、皆が見守るなかサプライズでの贈呈。葛さんはこの時を振り返り、次のように語っています。「大学まで徒歩30分以上掛かる私にとって、自転車は

必需品です。これまで先輩から譲り受けた自転車で大学や例会に通っていましたが、少々不自由なところもありました。新しい自転車は、素敵な色で変速もできて乗り心地が良く、何より皆さんの気持ちに感動しました！米山奨学生であること、そして秋田に留学できたことが本当に光栄です。これからもロータリーの精神を学び、自分も人を助ける人間になりたいと思っています」。



## 6. 博士号取得状況

2020学年度に博士号を取得した奨学生・学友は63人、これまでの累計は3,849人となりました（6月11日現在）。

米山記念奨学会では、博士号を取得した奨学生・学友へお祝いの腕時計を贈呈しています。裏ぶたに氏名を刻印した世界に一つだけの腕時計です。従来品の製造終了に伴い、7月以降の申請から新しい腕時計となります。博士号を取得した奨学生・学友がいまいましたら、当会事務局へご報告ください。

- 奨学期間終了後の取得でも対象です
- お届け先は、原則として世話クラブです
- 完成まで約2週間かかります

### 申請方法

「学位記の写真」もしくは「学位取得証明書」と、当会書式「博士号取得報告書」の2点を世話クラブから米山奨学会へFAXかメールで送信。  
(FAX:03-3578-8281 / email:scholars@rotary-yoneyama.or.jp)

時計が新しくなります



文字盤の裏に氏名を刻印